

東久留米市立東中学校 第2学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	・漢字の基礎・基本が定着していない生徒が多い。	・漢字の活用回数を増やすことで、知識を定着させる。	◎漢字テスト（15点満点）を週1回実施し、80%の生徒が10点以上を取る。
	・文章構成に苦手意識があり、活動になかなか取り組めない生徒がいる。	・感想や意見文を書く活動を取り入れる。 ・教員による文章の添削・助言を行う。	○短作文などで漢字の活用機会を増やし、指示がなくても既習漢字を使う生徒を70%以上にする。
社会	・資料の読み取りやグラフの作成についての理解が浅く、資料を使って表現する力が不足している生徒が見られる。	・発表の機会を増やし、教科書の資料や地図を読み取り、発表させたり、ワークシートに記入させたりする。	◎ワークシート・レポート等で、資料の読み取りやグラフの作成を要する課題を多く設定する。（中単元に1回）
	・提示された資料を基に、自分の考えをまとめ、言葉で説明するのが苦手な生徒が多い。	・自分の考えや意見を文章にまとめさせる機会を増やすとともに、失敗を恐れずに発言させる工夫をする。	○ワークシート・レポート等で、資料を基に自分の考えを説明させる課題を多く設定する。（中単元に1回）
数学	・問題文から課題解決に必要な内容を取り出し、数学的に処理・表現することが苦手な生徒が多い。	・文章の大事なポイントに下線を引かせる。 ・関数や図形では必要な情報を図に書かせる。	◎ワークシートや問題集で、大事なポイントに下線を引かせ、必要な情報を図に入れさせる。（正しく引ける生徒70%以上）
	・課題解決に向けて、今まで学んだ知識や技能を根拠にしながら、筋道を立てて考えることが苦手な生徒が多い。	・解決に必要な知識を確認しながら、何が分ければ数学的に処理できるかをノートに書かせるようにする。	○思考の過程を、根拠を示しながら表現できる生徒を50%以上にする。
理科	・自然界に興味・関心のある生徒は多いが、科学的思考が十分に養われていない生徒が多い。また、基礎知識の定着が十分ではない生徒が少なからずいる。	・授業に自然環境や生活環境に関連付けて関心を持たせ、疑問を提起したり、好奇心を活発に発動したりできる授業に取り組む。	◎単元ごとに小テスト（20点満点）を行い、15点以上取れる生徒を70%以上にする。
	・自然を観察する科学的方法や他分野との関連的思考が出来るように指導したい。	・基礎的知識などの定着をドリルなどで図り、理科の異なる単元や学習内容、他教科との関連でも発展的に考えられるように努力する。	○観察レポート、実験レポートを毎月1回以上提出させ、正しいレポートが書ける生徒を70%以上にする。
音楽	・真面目に取り組む生徒が多いが、楽曲の構成、音楽的な要素を捉えて表現することが苦手である。	・生徒が楽曲の構成等が分かりやすく興味をもてるように、ワークシート等の工夫をして学習に取り組ませる。	◎ワークシートの点検を単元ごとに行う。楽曲の理解、表現の工夫を確認する。
	・楽曲の音楽的な要素を理解し、表現していく力や積極性を伸ばしていく。	・良いところを指摘し合い、協力して取り組ませることで自信をもてるようにする。	◎実技テスト（毎学期） ○箏の実技チェックを行う。（2学期）

美術	・学習に意欲的に楽しんで取り組むことができるが、アイディアを主体的に出すことが苦手な生徒がいる。	・導入部分の工夫を行い、制作活動に入る前に生徒が自分の考えをワークシートにまとめたり、他の人の考えを共有したりできる活動にする。	◎ワークシートにおける構想の段階を確認をする。 ○振り返りカードを活用する。（毎時間）
	・制作活動のねらいを踏まえ、造形的な視点をもって学習に取り組めるように、日常の生活にある美術と関連をもたせるなどの工夫を行う。	・第1学年で身に付けた能力を活用して主題を明確にさせ、より深みのある表現方法を追求できるように、構想の仕方や手法について繰り返しの指導を行う。	◎鑑賞の授業と共に、各題材の導入部分などに鑑賞を行う。 ◎製作途中で3観点評価を行う。
保健体育	・与えられた課題に意欲的に取り組むことができるが、自分の考えを相手に伝えたり、全体に発表したりすることを苦手とする生徒がいる。	・学び合いの場を設け、お互いにアドバイスし生徒が主体的に考え行動する授業になるよう、学習カード等を効果的に活用する。	○学習カードやノートの点検（月1～2回） ◎授業観察（毎時間） ○単元（小）テストを学期に4回程度実施し、80%の生徒に基礎基本が定着するよう指導する。
	・体を動かすことが好きな生徒が多くいるため、個々の能力に応じた目標設定ができ、授業も主体的に取り組めるような工夫を行う。	・グループワークを設け、協力し合い、意見を交わしながら取り組むことで達成感を自信につなげるようにする。	◎学習カードやノートの点検（月1～2回） ◎授業観察（毎時間）
技術	・作品見本を参考に作業手順、作業方法を理解して取り組むことが苦手な生徒が一部いる。	・作業記録表を毎回書かせることで、生徒が自分の取り組む内容を把握し、取り組んでいけるようにする。	◎作業行程ごとに課題の点検をする。作業記録表を毎回提出して作業内容と作業進度を確認させながら作業方法、工具の使い方を身に付けさせる。
	・エネルギー変換を利用した作品の製作を安全に留意して取り組めるように、ラジオ・充電機の製作を通して、電気回路、回路計の使用方法について学び、安全に電気を取り扱えるようにする。	・作業の仕方、作業のコツなどを実演しながら説明を行う。	◎作品の進捗状況の確認を毎時間行う。作業の進みが遅い生徒には、補習の時間を設ける。 ◎回路計や、はんだなどの使い方について学び、8割の生徒が安全に扱える力を身に付ける。
家庭	・作る作品の見本を参考に作業手順、作業方法を理解して取り組むことが苦手な生徒が一部いる。	・作業の流れを説明書を用いて説明をし、作品作りが計画的に進めるように生徒1人1人が、自分の計画表を作成する。計画表を確認することで取り組み内容を把握し、取り組んでいけるようにする。	◎作業行程ごとに計画表、振り返りカードで作成物の取り組みの作業の状態を確認する。予定時間内に作業が終わることが生徒数8割以上を目指す。
外国語	・自分の意見を書く際に、適切な語順や単語を用いて表現することについて、個人差が大きい。	・書く力を養うために、文章のプロットを指導するとともに、テーマに沿ってまとめた英文を書く活動を複数回にわたって取り入れる。	◎単元テストを実施する。7割の生徒が合格点（8割程度）を取れるようにする。
	・話すことに対して意欲をもって取り組む生徒が多いが、即興的なやりとりに自信のない生徒が多い。	・帯活動として場面設定を明確にして、目的をもって話す活動を授業に取り入れる。	○パフォーマンステストを実施する。テスト後の自己評価で、表現力が向上したと感じる生徒が7割以上を目標とする。
科特別 道の徳教	・多面的、多角的に物事をとらえ、自身の考えを深める経験が必要である。	・他の生徒の意見を聞く機会を設け、対話的な学びの機会を増やし、自分の考えを深められるようにする。	◎1単位時間の授業の中に、ペアやグループでの話し合いの場面や、意見発表の場面を取り入れ、様々な考え方に触れる機会をつくる。
習總 合的 時間な学	・調べ学習で情報収集をし、新聞等に分かりやすくまとめることは出来るが、自分の考えをまとめたり、発表を工夫するのが苦手な生徒が多い。	・SDGsや進路学習等の調べ学習で発表会を行うことでよりよい発表の仕方を学習する。	◎調べ学習の発表を視聴覚機材を活用して学級や学年で行う。